



公益財団法人
仙台こども財団

ANNUAL REPORT 2025

2025年度 活動報告書

ANNUAL REPORT 2025

目次

- 01 | 理事長からのメッセージ・・・・・・・・・・ p1
- 02 | 仙台こども財団について・・・・・・・・・・ p2
- 03 | 仙台こども財団ってどんなことをしているの？・ p3
- 04 | 活動報告・・・・・・・・・・ p4
- 05 | ご支援いただいた皆さま・・・・・・・・・・ p10
- 06 | 財務報告・・・・・・・・・・ p11
- 07 | 理事・スタッフからのメッセージ・・・・・・・・ p12

01

理事長からのメッセージ



日頃より、仙台こども財団の活動に温かいご理解とご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。2025年度のアニヴァーサリーレポートをお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

2023年11月の設立以来、私たちは多くの団体や地域の皆さまから学ばせてもらいながら、「まち全体がこども・子育て家庭にあたたかく、すべてのこどもたちが健やかに育つ社会」の実現を目指し、歩んできました。

少子化や人口減少が進み、地域のつながりも減る中で、こどもや子育てを取り巻く環境は複雑化・多様化しております。こうした状況の中で、こどもたちのウェルビーイングを高めていくためには、こどもたちが主体的に社会に参画できる機会を広げていくこと、多世代が自然に集い、こどもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進めることが重要であると考えています。あわせて、地域の多様な人や団体のつながり、それぞれの強みを生かしながら、こどもや子育て家庭を地域社会全体で支える仕組みを築いていきたいと思っています。

2025年度、仙台こども財団は公益財団法人として新たな一歩を踏み出しました。支援団体等とのネットワーク構築や「こども・若者会議」等、継続して取り組んできた事業に加え、「こどもいけん広場」や「こども提案プロジェクト助成」、「こども・どこでも居場所づくり助成」等の事業を新たに開始し、こどもたちの主体的な取組の促進と地域とのつながりの推進を図ってまいりました。

ここまで活動を続けてこられたのは、子育て支援団体、地域、企業の皆さま、そして寄附や応援を通して支えてくださる多くの方々のおかげです。一人ひとりの「こどもたちのために」という想いがつながり、支え合うことで、私たちの活動は成り立っています。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。

私たちは、皆さまとともに学び、ともに考えながら、こどもたちの声大切にされ、ひいては地域みんなの声大切にされる社会をつくっていききたい。その歩みを、これからも皆さまと一緒に進めていければと思っています。引き続き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

理事長 湯浅 誠

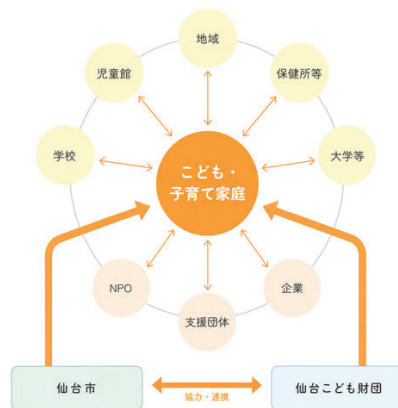
仙台こども財団について

すべてのこどもたちが 健やかに育つ社会を目指して

仙台こども財団は、こどもの健やかな育ちと子育てを地域社会全体で支える気運を一層高めるとともに、こどもを中心とした社会づくりを進めることを目的として、2023年11月に設立しました。

私たちは中間支援団体として、人と人、活動と活動をつなぎながら、まち全体でこども・子育て家庭を支える仕組みづくりに取り組んでいます。
そのうえで、何よりも大切にしたいのは、こどもたちはもちろん、現場や地域の皆さまの声です。

これからも多くの方との対話を大切にしながら、信頼・連携・協働のもと、皆さまと一緒に歩んでいきます。



ビジョン

財団が実現したい未来の姿

まち全体がこども・子育て家庭にあたたかく、
すべてのこどもたちが健やかに育つ社会

ミッション

財団が取り組むこと

- こどもたちからの提案を一緒に実現します
- 多世代交流を促進し、人と人とのつながりを育みます
- こども・若者・子育て支援ネットワークの輪を広げます

バリュー

財団が大事にする価値

- 失敗をおそれずチャレンジを楽しみます
- 現場の視点・様々な声を大切に、対話と共有を重ねます

仙台こども財団ってどんなことをしているの？

私たちは、ビジョンの実現に向け、2025年度は下の4つの柱で取り組みました。

こどもが主体的に 参画できる機会を増やす

こどもたちの声や提案がまちを動かす一歩になる時、自信や地域への愛着へとつながってきます。こどもたちが自分自身を好きになり、「自分のまち“仙台”」の未来をつくる主役となるよう、その機会を増やしていきます。



多世代交流を促進し、 人と人とのつながりを育む

こどもがいる世帯が2割未満となり、地域のつながりも減る中、こども・若者の居場所が減少しています。多世代交流を通じて、誰もが「自分の居場所がある」と実感しながら安心して過ごせるよう、人と人とのつながりを育んでいきます。



中間支援組織としての基盤を固める

こどもたちの育ちを支えるためには、地域全体で支え合う仕組みが必要です。多様な主体とのネットワークを育みながら、こどもをまんなかにした活動が広がる基盤づくりを進めていきます。



支援団体の皆さまの想いを聴く／
現場レポートを発信中！



「チーム」で 子育てする環境を整える

共働き世帯の増加や核家族化が進む中、子育てを家庭だけで抱え込まず、職場や地域で支え合う環境づくりが求められています。男性の育休取得や育児参画の推進を通じて、社会全体で支え合う「チーム」で子育てする環境の実現を目指しています。



こどもが主体的に参画できる機会を増やす

こども提案プロジェクト助成

小学生3グループが「わたしたちのまちをもっとよくする」活動に取り組み、同じ想いを持ったグループのメンバーで目標に向かい挑戦する姿が見られました。
メンバー同士で話し合い、時には意見がぶつかりながら、協力して一つのものをつくり上げていく——その経験こそが、こどもたちの主体性を育む大切な芽となっています。



グループ名
MITARASHIDANGO

活動のタイトル
おとなもこどもも！おども食堂

まちに自然な笑顔が増え、たくさんの人とのコミュニケーションのきっかけを作るため、こどもたちが中心となりこども食堂を開催しました。



グループ名
ずんだビート

活動のタイトル
#見て、聴いて、仙台発信隊！

仙台市の良いところや魅力を多くの人に知ってもらうため、新しい名物キャラクターと一緒に撮影した写真や動画、曲を作成し、SNSや動画配信サイトで市内外に広く発信しました。



グループ名
TOYMANIADX2

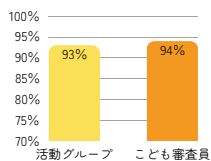
活動のタイトル
**どんぐりマーケットを
もりもりアゲアゲ隊**

小さいこどももおとなもみんなが笑顔になれるどんぐりマーケットにするため、材料屋さんをして出品できる人を増やし、自分たちも手作り商品を出品しました。

提案の審査は、
7名のこども審査員が行いました。
活動する側と審査する側、
それぞれの立場は異なりますが、
「まちづくりに関わる」という
想いは同じです。



「自分たちのまちについて
考えることができた」と
回答した割合



仙台の魅力を発信！

活動グループ
ずんだビート メンバー
ビートくんの飼い主さん



活動を通して、仙台への愛が深まりました。撮影を通じて地域の魅力や人とのつながりを知り、その良さをYouTubeで発信できたことが嬉しかったです。これからも仙台の魅力を伝えていきたいです。



ずんだビート
YouTube

みんなの発表が、私の勇気に

こども審査員
坂田 汐里さん



挑戦して良かったなと思いました。
最初はたくさんの方の前で質問や発表することができるとか心配だったけれど、3つのグループの発表を聞いているうちに不安だった気持ちが消えて、最終的には楽しかったと思える経験でした。

こども・若者会議

こども・若者会議の様子は
こちらから

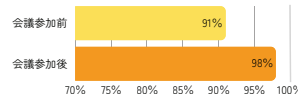
YouTube



小学校4年生から高校2年生までの18名が2期生として約半年間活動し、「わたしたちが幸せなまち」の実現に向けて話し合いを重ね、企画・提案を行いました。11月に開催した「こわかフェスティバル2025」では、こどもたちが自分の可能性を見つけてほしいという想いから「こども職業体験広場」と、参加したこどもたち全員が楽しく過ごし、この活動のことを知ってもらいたいという想いから「うしとかげの秘密基地」の2つの取組を行いました。

会議では、こども基本法について学ぶ機会を設け、自分の考えを相手に伝えることや、相手の想いを受け止めることを大切にしながら活動を進めました。スタッフは、一人ひとりが安心して意見を言える環境づくりを意識し、互いを尊重しながら学び合う場となりました。

「自分の意見を言うことができた」と
回答した2期生の割合



自分もみんなも大切にできる場所

こども・若者会議2期生
山谷 萌々子さん



自分も、周りの人もそれぞれに「発表するのが得意」や「人の話をしっかり聞いてくれる」等の良さがあるということを再確認できる場所でした。ちょっと今日調子悪いな...と思っても、ここに来たら元気じゃなかったことも忘れるくらい楽しくて、自分にとってすごく良い場所でした。



こどもいけん広場

集計結果・フィードバック資料は
こちらから

ウェブ
サイト



Webアンケート

「仙台市教育構想2026」をはじめとする仙台市の施策に関するテーマのほか、当財団シンボルマークデザインの公募・選考等を実施。延べ401名のこどもたちの声を市のまちづくり等につなげました。詳細はフィードバック資料にまとめて掲載しています。

対面意見交換会

「西公園屋内遊び場整備」をテーマに実施し、小・中学生20名が参加しました。利用者目線のアイデアがたくさん飛び交い、こどもたちのリアルな声を直接聴く貴重な場となりました。他の人の意見を聴いて新しいアイデアが生まれたり、意見に共感し合ったりといった、対面ならではの活発な交流が見られました。

こどもたちの声を
屋内遊び場の整備計画に反映

仙台市こども若者局子育て応援都市推進課
遊び場整備担当係長 小出 和宏さん

「こどもいけん広場」を通じて、こどもたちから「こんな遊びや過ごし方ができたらいい」といった、新たな視点・発想をもった多くの意見を得ることができました。西公園への屋内遊び場整備は、今後も様々な取組を進めますが、引き続きこどもたちの視点を大切に、魅力ある遊び場の実現につなげていきたいと考えています。

多世代交流を促進し、人と人とのつながりを育む

子ども・どこでも居場所づくり助成

多世代交流の居場所づくりに取り組む3団体に助成を行い、地域の子どもたちの居場所づくりを支援しました。それぞれの団体が地域と連携しながら、多世代が自然に集い、交流できる場を目指し、地域に根差した多様な居場所づくりを進めました。

「子どもとともに、多世代が集える場をつくりたい」というあたたかな想いが、世代を超えた交流を育み、地域のつながりの輪を広げています。



団体名
みんなの居場所片平寺子屋

活動のタイトル
みんなの居場所片平寺子屋

米ヶ袋集会所を利用して、子どもたちと地域の方々が気軽に立ち寄ることができる交流スペースを開設しました。



団体名
つるがや子ども食堂

活動のタイトル
ございんカフェ

子ども食堂の従来の食料支援の活動に加え、多くの地域の方が交流できる居場所として「ございんカフェ」を開催しました。



団体名
(一社) 教育資源創造機構
(相談・まなび塾)

活動のタイトル
みんな集まれ！
秋を楽しみ、心をつなぐ会！

相談・まなび塾で活動している子どもたちや保護者、支援する高齢者・学生・地域の人々が一堂に会し、作品作りや芋煮会のイベントを開催しました。

子ども・どこでも居場所づくり活動報告会

各団体から、活動の工夫や成果、参加した子どもたちの様子等が紹介されました。



助成を活用して 地域の交流スペースを開設

みんなの居場所片平寺子屋
代表 山形 佳代子 さん



子育て期に支えていただいた地域への恩返しをしたいという願いから、この居場所を立ち上げました。月に一度、親子や地域の方々が安心して集い、言葉を交わしながらつながりを育む場となるよう活動を行っております。

参加者からは継続を願う声も寄せられ、この場を大切に思いながら関わってくださる方々の輪も広がっています。

これからも世代を問わず地域の誰もが気軽に集い、安心して過ごせる居場所づくりを進めてまいります。

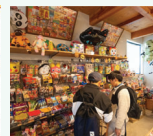
多世代交流の事例紹介・情報発信

せんだい・
こども居場所
レポート



せんだい・こども居場所レポート

子どもとともにつくる多世代交流の居場所づくりに取り組む皆さまを取材し、「せんだい・こども居場所レポート」として発信しました。活動の背景にある想いや居場所の魅力を丁寧に伝えることを大切にし、読んだ方からは「応援したくなる」といった温かい声をいただきました。



取材を通じて

TAMARIBA/縁寿屋
遠藤 靖子 さん



今回の取材を通じて、駄菓子屋はお菓子を売るだけではなく、子どもたちが家族以外のおとなや社会とつながる大事な場所だと改めて感じました。私たちができることを地域や子どもたちのために少しでも長く続けていけたらと思います。

子ども・子育てシンポジウム

シンポジウムの様子は
こちらから

You
Tube



「子どもとつろう！みんなの笑顔がつながる居場所」をテーマに、居場所づくりに取り組む3団体から活動を紹介していただき、現場の苦労や本音に迫るトークセッションと参加者同士の交流を行いました。

参加者は、地域における居場所の必要性や多様なあり方への理解を深めるとともに、実践者にとってはさらなる活動のヒントを、これから関わろうとする人にとっては「自分にできることは何か」を考え、一歩を踏み出すきっかけを得る機会となりました。

会場には温かな共感と活動への関心が広がり、多世代が集う居場所について、地域の皆さまとともに考える場となりました。



参加者の声

(来場者アンケートより)

- ・身近に熱意を持って居場所づくり活動をしている方がいらっしやるということを知りました！
- ・活動の当事者から体験を聞くのは、とても説得力がありました。
- ・トークセッションではそれぞれの立場や視点で本音を聞くことができ、よりこのような活動を応援したいと感じました。

多世代交流モデル事業

地域と協働した取組の成果やプロセスを発信し、他の地域への横展開を通じて、多世代交流型のこどもの居場所を増やしていきます。

「チーム」で子育てする環境を整える

パパ育休サポートプログラム

「制度は整備しているが取得実績がない」、「ロールモデルがない」といった悩みを抱える中小企業3社に専門家を派遣し、企業の課題に寄り添いながら、男性育休取得に向けた支援を行いました。社内規程や申出フローの整理、育休取得者や上司への個別フォロー等を通じて、仕事と子育てを両立しやすい職場環境づくりを進めました。その結果、初の男性の育休取得が実現し、子育てを職場全体で応援する意識の向上や、互いに支え合う風土の醸成につながっています。



多様な働き方を支える職場づくり

株式会社ビー・プロ
代表取締役 松田 泰成 さん



社会保険労務士による実務的な助言を受け、男性育休制度への理解が深まるとともに、取得を後押しする職場環境づくりへの意識向上につながりました。

企業の課題に寄り添いながらサポート

社会保険労務士
伊藤 弘樹 さん



企業ごとの課題に寄り添いながら、仕事と育児を両立できる体制づくりをサポートしました。男性育休を通して、温かい職場環境の輪が広がるように仙台を盛り上げていきます。

育児参画に関するセミナー

「男性育休って、実際どうなんだろう」——そんな身近な関心を入りに、平野翔大氏（一般社団法人Daddy Support協会 代表理事）を講師に迎え、男性の育児参画について考えるセミナー「プレパパ教習所 in 仙台」を開催しました。

「育休は、その後のスタートダッシュをつくる期間」という考え方や、育休を取得したパパたちの家庭や職場での体験談に、参加者の間で多くの共感が生まれました。参加者一人ひとりが、育休の活用や家庭での役割分担への理解を深めながら、それぞれの家庭の状況や価値観を踏まえて、自分たちに合った育児との関わり方や、これからの子育て・暮らしについて考える時間となりました。



育児参画セミナーの様子は
こちらから

ウェブ
サイト



参加者の声（事後アンケートより）

- なぜ男女で考えや言動、すれ違いが起きるのが分かり、涙が出ました。パートナーにも聞いてもらえて良かったです。
- パパになる心構えや女性側の心身の変化等、男性は聞いたり学ぶ機会が少ないです。仕事と育児のバランス等も含め、当事者だけでなく会社の管理職や地域の方にも聞いてほしいです。

中間支援組織としての基盤を固める

調査・研究

調査報告書



こどもとともに作る多世代交流の居場所づくりに取り組む5事例を取材・調査し、報告書として公開しました。多様な主体が担い手となり、こどもたちが地域のおとなと世代を超えてつながる様子が見られました。また、こどもの居場所づくりを進めるうえで大切な視点を有識者の監修を得ながら整理し、地域全体におけるこどもの居場所づくりの気運醸成につなげました。

児童福祉セミナー

アンケート
結果より

「ウェルビーイング」の考え方を、今後の日々の業務に生かすことができそうですか？

100%



「現場で生かす！こどもとウェルビーイングの実践セミナー」と題して、放課後NPOアフタースクール代表理事の平岩国泰さんを講師にお迎えしました。講演とワークショップの2部構成で実施し、講演では「自己決定」をキーワードにした具体的な声かけ等、現場で使えるヒントを学び、実践への意欲を高めました。ワークショップでは、「こどもが幸せな居場所づくり」について考え、「居場所はみんなで作り上げていくもの」という想いを分かち合いました。

ネットワーク構築



こども・子育て支援に取り組む皆さまのネットワークづくりの支援の一環として、計7回「こども財団サロン」を開催しました。地域で活動されている様々なゲストの方をお招きして、実践事例をお話いただき、ゲストや参加者同士が交流しながら情報交換や意見交換を行いました。活動の背景や悩み、工夫を共有し合うことで、新たな気づきやつながりが生まれ、「地域全体でこどもを支えていく」関係づくりの場となりました。

情報発信



当財団の取組や支援団体等の皆さまから寄せられたイベント案内を、ウェブサイトやSNSを通じて継続的に発信しました。SNSは2日に1回の頻度で投稿を行い、毎月配信しているメルマガでも最新情報をお届けしました。地域における支援の輪をさらに広げていけるよう、今後も工夫しながら発信を継続していきます。

メルマガ
配信登録



Instagram



ご支援いただいた皆さま

地域社会の持続的な発展には、こどもたちが安心して学び育つ環境が欠かせません。北斗技研は仙台こども財団の活動に共感し、未来を支える世代への支援に取り組んでまいります。

皆様の取組が地域により大きな力をもちます。株式会社北斗技研 代表取締役 高橋 和史 様



仙台がこどもたちの笑顔で満ちた活気あるまちとなるよう、私たちは企業として協力してまいります。地域の宝であるこどもたちから元気が発信され、未来を支える仙台こども財団の活動がこれから一層充実していくことを心より願っております。

株式会社バイタルネット
社長室長 佐藤 貴恵子 様



トランスコスモスは全国で勤務する多くの従業員とご家族を大切に、こどもたちの健やかな成長と子育て支援は重要な取組と捉えています。本寄附を通じ、地域とともに未来を育む仙台こども財団の活動が更に発展することを心より期待いたします。

トランスコスモス株式会社
CX事業統括 DCC総括 東北サービス統括部
統括部長 宇野 学 様



個人寄附者
本間 博子 様

仙台こども財団の活動を拝見し、何よりも素晴らしいと感じたのは「素敵なおとなに出えること」、そして「こどもの声を聴き、それを実現する楽しさを教えてくれること」の2点です。

ここで言う「素敵なおとな」とは、こども財団のスタッフの皆さまのこと。日々の活動を通じて、こどもたちが「自らやりたい」と思う心を育ててくださっているのが伝わってきます。また、こどもたちが「しあわせなまちとは何か」を自ら考え、仲間とともに「自分たちに何ができるのか」を話し合って実現するという、小さな成功体験の場も作ってくれています。こどもを単なるこどもとしてではなく、一人の人間として、そして「地域の主人公」としてスポットライトを当ててくれる。その関わりがあるからこそ、こどもたち自身も自分たちが地域の「主体者」であることを実感できるのだと思います。

このような仙台こども財団の素晴らしい活動を、私たちおとなも陰ながら応援したいという想いから、この度寄附をさせていただきました。仙台こども財団が発信拠点となり、この取組が全国へ広がっていくことを心から願っております。素晴らしい活動に、深く感謝いたします！

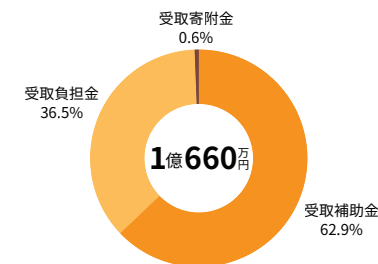
財務報告

2025年度 決算状況

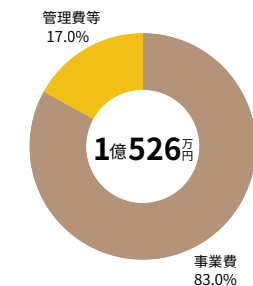
(単位：円)

科目	金額
経常収益	
受取補助金 ※	67,020,701
受取負担金	38,930,355
受取寄附金	644,000
経常収益計	106,595,056
経常費用	
事業費	87,393,021
管理費等	17,864,512
経常費用計	105,257,533
当期正味財産増減額	1,337,523

経常収益 内訳



経常費用 内訳



※企業版ふるさと納税による仙台市への寄附金を含みます。



理事・スタッフからのメッセージ



理事 菅野 澄枝

仙台市地域防災リーダー（SBL）

仙台こども財団に関わると、色々なこどもやおとなたちの存在に気づき、考えさせられます。自分に何ができるのだろう。そんな想いに一歩踏み出す勇気をくれるところで。たくさんの皆さまのつながりと力の結集が、支えです。皆さまと手を取りあえる居場所づくりへ、スタートはいつからでも！



理事 今野 彩子

株式会社ユーメディア 専務取締役

こどもたちも、こどもに関わるすべての人たちも、自ら未来を描ける地域をつくりたい。地域は、様々なおとなや仕事、生き方に出会える最高の学びの場です。出会いを拓け、挑戦を応援する文化を育む、その未来を仙台こども財団とともにつくっていきたいです。



企画課長 大岩 美貴子

ネットワーク構築担当

財団設立当初よりこども・子育てに関わる団体の皆さまには温かくお迎えいただき、様々な会議等にもお声がけいただきながら、多くの方々と顔の見える関係を築くことができました。今後も、一人でも多くの仲間との出会いを大切にしながら、つながりの輪を広げ、こどもたちのためにともに取り組める関係を育んでいきたいです。



企画課 川野 友夏子

こども・どこでも居場所づくり助成担当

団体の皆さまの想いが地域を巻き込み、こどもたちの居場所づくりの活動を支えていることを感じました。実際にこどもたちと地域の方々笑顔で交流されている様子がとても心に残っています。多世代交流を通じて、こどもたちがありのままの自分で過ごすことができるような笑顔あふれる居場所を増やしていきたいです。



企画課 徳差 桃葉

こども提案プロジェクト助成担当

公開審査会や活動発表会で自分たちの想いを堂々と発表し、まっすぐに活動に取り組むこどもたちの姿が印象的でした。こどもたちの声には、周囲のおとなや地域を動かす力があることを改めて感じています。多くのこどもたちが「やってみよう！」に挑戦できる機会を増やしていきたいです。



総務課 西村 まみ

こども財団サロン担当

様々な現場や分野の方々との出会い、同じ時間を過ごす中で、たくさんのご経験やその想いに触れ、多くの学びと気づきをいただきました。こうした出会いを重ねながら、新たなつながりが生まれる場を、これからも皆さまとともにつくっていききたいと思います。

役員

2026年4月1日現在

理事長	湯浅 誠	（東京大学特任教授・認定特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ公共政策アドバイザー）
副理事長	佐々木 淳一	
専務理事	三井 悦弘	
理事	菅野 澄枝	（仙台市地域防災リーダー（SBL））
	今野 彩子	（株式会社ユーメディア専務取締役）
	佐々木 綾子	（認定特定非営利活動法人STORIA代表理事）
	立岡 学	（一般社団法人パーソナルサポートセンター業務執行常務理事）
	羽山 暁子	（株式会社Pallet代表取締役）
	吉田 浩	（東北大学大学院経済学研究科教授）
監事	千代谷 馨一	（仙台市こども若者局こども若者企画部長）
	飛松 教子	（飛松会計・司法書士事務所代表）



寄附のお願い

仙台こども財団は、こどもたちの「やってみよう！」という想いや、多世代がつながる居場所づくりを応援しています。

「こども提案プロジェクト助成」や「こども・どこでも居場所づくり助成」は、皆さまからの寄附やご支援に支えられています。これからも、仙台のこどもたちの健やかな育ちと挑戦を地域全体で支えていけるよう取り組んでまいります。

温かいご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

※いただいたご支援は、助成事業や、その他財団の取組に要する費用に活用させていただきます。

ご支援はこちらから
お願いします



公益財団法人仙台こども財団

〒980-0803

仙台市青葉区国分町3-6-1 仙台パークビル4階

TEL：022-302-5275 FAX：022-302-5276

メール：info@sendai-kodomo.jp

仙台こども財団



ウェブサイト



Instagram



X



Facebook



メールマガジン

